

令和3年度（2021年度）

学校関係者評価 報告書

学校法人巨樹の会 八千代リハビリテーション学院

本報告書は、学校法人巨樹の会 八千代リハビリテーション学院の職業実践専門課程認定
に関わる学校関係者評価委員会による令和3年度の評価結果を記したものである。

令和4年7月21日

学校長 片山 薫
副校长 豊島 宇茂（評価実施責任者）

<目次>

1. 学校関係者評価の概要と実施状況

- 1) 学校関係者評価の目的、方針
- 2) 学校関係者評価委員
- 3) 学校関係者評価委員会の開催
- 4) 学校関係者評価の実施方法

2. 学校関係者評価の項目、内容

- 項目I 教育理念、教育目的・目標、人材育成像
- 項目II 学校運営
- 項目III 教育活動
- 項目IV 学修成果
- 項目V 学生支援
- 項目VI 教育環境
- 項目VII 学生の受け入れ、
- 項目VIII 財務
- 項目IX 法令等の遵守
- 項目X 社会貢献、地域貢献

1. 学校関係者評価の概要と実施状況

1) 学校関係者評価の目的、方針

- ① 関係業界・職能団体、高等学校、卒業生、学生保護者、地域住民などの学校関係者が、本校の自己評価の結果を評価することで、その妥当性を確認し、客観性・透明性を高めることを目的とする。
- ② 学校関係者評価により、本校の学校運営・教育活動における課題を明確にし、その意見を参考に学校運営の改善を図る。
- ③ 学校関係者評価は、本校の自己評価を基に、「専修学校における学校評価ガイドライン」、および本校の学校評価実施規程に則り実施する。

2) 学校関係者評価委員（令和3年度）

※敬称略、◎印委員長

委員氏名	所 属	選出区分
◎ 市角 雄幸	習志野市市議会議員	地域委員
奥田 裕	帝京科学大学東京理学療法学科	評価経験委員
小林 誠	医療法人静和会 浅井病院	卒業生委員
斎藤 剛史	成田富里徳洲会病院	企業委員
田中 朋美	千葉みなとリハビリテーション病院	企業委員
矢島奈穂美	千葉県立八千代東高等学校	高校委員

3) 学校関係者評価委員会の開催

- ①学校運営状況の中間報告 日 時：令和3年9月30日(木) 郵送にて書面報告を実施
- ②委員会開催 日 時：令和4年3月8日(火) 18:30～20:30
場 所：八千代リハビリテーション学院 基礎医学実習室

4) 学校関係者評価の実施方法

令和3年度の学校自己評価に基づき、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- ① 自己評価の結果および内容が適切かどうか
- ② 課題やその解決への方向性が適切かどうか
- ③ 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- ④ 学校の運営に関する助言、提言

2. 学校関係者評価の項目、内容

学校関係者評価、自己評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評定基準にて実施する。

学校関係者評価では、自己評価の評定が適正であるか審議を行い、あわせて学校運営に関する意見や提案を受けて検討する。

【評定基準】

S : 十分に達成している。

(達成度が高い)

A : 達成している。

(概ね達成しており、明らかな改善は要しない)

B : 達成がやや不十分である。(若干の改善を要する)

C : 達成が不十分である。(不適合がある、明らかに改善を要する)

項目 I 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

教育理念・目的・目標等は、学生便覧・パンフレット・Webサイト等で公表して、学生、受験生、関係者、教職員において共有できている。学則、カリキュラム、シラバスなども公開しており、Webサイトでの情報閲覧が可能となっている。

課題

教育理念・目標等を反映した、改訂カリキュラムによる教育課程の構築、運用を図る。

今後の方向性、方策など

養成施設指定規則改訂に応じた教育課程、カリキュラムへの移行3年目である2022年度には新カリキュラムでの卒業生の輩出を教育理念・目標の観点から確認する。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

作業療法学科のカリキュラムが日本作業療法士協会推奨と乖離があるかについて

⇒ 指摘のグループ法人の病院での臨床教育は本校の特色が活かされたものであり、指定規則による教育課程を満たしてその学修成果も認められ、学修上の支障や問題となるような乖離はない。

小項目 I - 1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 学校案内、ホームページ等で広く公表、周知している。

小項目 I - 2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: ホームページ、刊行物等で、広く公表、周知している。計画的な高校訪問やWebシステムの活用など受験者に対する周知も拡充して、順調な学生募集となった。

小項目 I - 3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 臨床実習、就職活動、教育課程編成委員会等から把握した業界のニーズに対応する教育目標や人材育成像を教育課程に反映させている。特に臨床実習を全面的に受け入れているグループ病院と密に連携して、具体的なニーズの把握と職業実践教育への反映を図っており、多くの学生が就職している。

項目 II 学校運営

総括

運営方針に沿って、適正、円滑な学校運営を行い、卒業・進級はじめ、学生の修学への支障は生じていない。2023年度の入学定員増員に向けた準備も進めている。

課題

2023年度入学定員増員に向けて、体制作り、環境整備など、円滑な学校運営を行うための準備、対応が求められる。

項目III 教育活動

総括

卒業資格である国家試験受験資格に見合う教育活動に努め、学修成果にも表れている。臨床実習病院との連携を深め、コロナ禍でも実践的な臨床教育を行っている。ディプロマポリシーに則り、更なる教育活動の向上に取り組む。

課題

養成施設指定規則改訂後の教育課程の実践について3年間全体を通して確認する。授業評価結果の活用、教員個々の教育・指導力の育成を図る。

今後の方向性、方策など

令和4年度は昼間コース1～3学年の全学年で改訂カリキュラムによるシラバスの運用と授業運営を進める。ICT教育、オンライン授業に関してなど、教育力向上の取組みを継続する。

小項目 II-1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 運営方針を策定して、部門会議、学内委員会・情報管理システムなどで教職員に伝達・周知し、方針に沿った業務推進であることを確認している。

小項目 II-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 就業規則、業務分掌に則り、業務を推進。意思決定は学校運営会議、学科会議、学内委員会等で行い記録、伝達・周知を確認している。情報管理システムの導入により、意思決定から周知まで遅滞なく行われている。

小項目 II-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 学事サーバーによる成績や情報管理により、メール等での学生への速やかな情報発信、出席確認などを行い、緊急時は学生に加えて保護者へのメール連絡も可能な体制を整備した。また、新たに導入した情報管理システムの運用により、学事運営、施設設備管理、勤怠管理業務の効率化も図られた。

小項目 III-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 教育課程の編成・実施方針は学校運営会議で確認の上で策定している。

教育課程編成委員会での検討内容や意見も審議の上で策定している。

2022年度の3年次生への新カリキュラム導入準備を行った。

小項目 III-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: コロナウイルス感染対策を実習受諾のカマチグループ病院と連携して実施。臨地での実習を病院内のエリアや学生の状況など、個別的に対応して、可能な限りの実践的な臨床教育機会を確保した。

小項目 III-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 学生からの授業評価、教員間の授業評価とともに、予定通り、前期、後期のそれぞれに実施した。学内専任教員へのフィードバックも行っているが、授業運営や教育力向上に寄与している状況の確認が今後の継続課題である。

小項目 III-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 初年次より国家試験に向けた重点科目を位置付け、最終学年次には実習での臨床思考の経験による実践的、応用的理解を深め、学内での学修指導、成果判定、対策学習を計画的、体系的に行い、成果につながっている。
今年度は臨床実習も概ね予定通りに実施でき、学内における対面講義、グループ学習、感染防止を考慮したオンラインでの学習と併せ、計画通りの学習が行なわれた。

小項目 III-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 教育指導力を学科責任者が確認して、専門技能の教授力と併せて専任教員の資質向上を図る目的で、年2回の面談を行っている。
研修の受講、研究、学会や論文の発表については、教育・専門分野ともに推奨するも、コロナ禍以前に比較して減少し、限定的であり、今後の検討課題である。

項目IV 学修成果**総括**

進級・卒業、国家試験、就職・職業実践を目指す教育および修学支援を行い、理学療法学科作業療法学科ともに良好な学修ならびに就職率、国家試験合格率の成果が認められる。

課題

留年や退学は減少しているが、モチベーションの維持、能動的学習など学修方策の工夫、心理面でのサポートなど、退学者の低減へ向けて更なる取り組みを図る。

今後の方向性、方策など

学修成果が上がりにくい学生、心理面でのサポートが求められる学生などへの個別性を考慮したサポートを行っていく。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

最終学年での原級留め置きについて

⇒ 臨床実習の単位は修得するも、必修科目の理学療法総合学習の単位が未修得となり原級にとどまっている。

コロナにより通常登校が制限されるなかでの最終学年の国家試験対策学習について

⇒ 感染による行動制限中の者は国家試験を受験できないため、試験前の一定期間は登校せずにオンラインによる学修支援を実施。それまでは感染防止策をとり、体調不良者は登校を控えるようにして、グループ学習や個別指導を継続した。学内での感染拡大はなく、学生のオンラインへの順応もスムーズでグループワークも取り入れ、支障なく学修できていた。

小項目 IV-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: グループ病院への就職支援ほか、多くの求人情報の掲示、就職説明会やセミナーなどの就職活動支援を行い、開校以来16年100%の就職率が続いている。

小項目 IV-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 国家試験を考慮した授業内容や学修方策、模擬試験実施、国家試験対策学習を行い、全国平均を大きく上回る高い合格率を継続している。

小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: モチベーション維持、成績や心理的要因でサポートが必要な学生への介入、保護者との連絡など、早期に速やかな対応を行うことで退学者は低減している。

小項目 IV-4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント: ボランティアなどの社会的活動を把握して、実行委員会への参画など学校の支援体制を継続するが、イベントの中止により活動機会はなかった。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

高等学校との連携、キャリア教育について

⇒ コロナの感染防止を行う中で、対面でのガイダンスや進路室訪問なども制約が少なくなり質・寮ともに相互の連携がとれたと思われる。

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 就職支援により早期の内定をすすめ、16年連続で就職率100%を達成している。

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 担任の定期面談から、保護者や学科責任者を含めた面談も実施している。臨床心理士による相談室、カウンセリングを月2回、通期に開設している。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 連絡や面談等で連携を図り、就学や進級・卒業が懸念される場合は保護者同席で面談を行う。緊急時の保護者へのメール連絡も行っている。

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 定期的な高校訪問によりニーズを把握して指定校入試を実施。感染症対策のもと高校での進路授業やガイダンスへの協力も例年通り実施した。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 寮などの生活面、奨学金窓口や特待生制度などの経済面も支援を行っている。作業療法学科は教育訓練給付金制度が社会人入学者の支援になっている。

項目V 学生支援**総括**

クラス担任による修学支援や保護者との連携を密に行い、学生相談室でも対応して欠席や退学の低減につながっている。高等学校とはキャリア・進路支援などで連携を深めている。

課題

モチベーション低下やストレス・精神的な不安を抱える学生への保護者も含めた相談や支援、効果的な介入を早期に速やかに行う。

今後の方向性、方策など

学生の修学状況に関する報告、連絡、相談を速やかに行い、学生へ関わる教職員、部門での統一した適切な対応を行う体制を明確にして継続していく。

項目VI 教育環境

総括

施設、設備・機器、学校保健・学校安全、臨床教育体制、防災体制などを毎年確認、整備して、その充実を図り、2023年度の入学定員増への対応も準備している。

課題

2023年度入学定員増、校舎増築等による防災、危機管理体制の更新が必要。

今後の方向性、方策など

2023年度に向けた教育環境の整備、防災・危機管理体制の整備を進める。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

コロナ感染防止対策の中での臨床実習の実施について

⇒ 陽性者、濃厚接触者の行動制限、実習病院職員の勤務に準じて実習生は行動し、病院内の感染発生には状況に応じて実習の可否を判断している。実習病院は学校のグループ法人で密な連携をとり、他の学校や施設の状況も参考に効果的な実習を検討していく。

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 設備、教材、図書など年度毎に確認、整備している。2021年度のOT学科、2022年度のPT学科の第三者評価を通じて、2023年度に向けた整備を行う。

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 産学連携を結ぶグループ法人の病院と検討して、コロナ対策下でも実習病院、学生や家族の状況などの個別性応じたて可能な限りの臨地実習を行えている。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: A ■学校関係者評価: 適正

■コメント: コロナウイルス対策により、避難含む総合訓練は部分訓練に変更。感染症に関する対応も状況を確認して柔軟に行っている。

項目VIII 学生の受け入れ、募集

総括

高等学校への進路・キャリア情報の提供に努めて多くの高校生の受験、入学実績がある。特に県内高校からの入学が多く、定員を満たす学生の受け入れを継続している。

課題

社会人入学者、夜間コース入学者へのより一層の情報提供を検討していく。

今後の方向性、方策など

高等学校へは入学後の修学状況の報告など随時、的確な情報の伝達を行う。また、2023年度の入学定員増員に向けては、高等学校の進路・キャリア支援との連携を深めていく。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

学生募集に際しての高等学校への訪問回数や指定校との連携について

⇒ 入学者の多くが千葉県内の高校生であり、入学実績のある高校を毎年、年3回程度訪問する。その中の指定校には毎年6月初旬に指定校入試の案内を書面にて行っている。

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 進路室への訪問や高校でのガイダンスなど対面での機会に加えて、webサイトでの情報提供も充実させ、指定校はじめ高校推薦入試の受験者が増加している。

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 資格取得、就職状況、国家試験対策学習などの具体的な内容や過年度実績などを公表し、オープンキャンパスや進学相談等で必ず説明を行っている。また、ホームページはじめwebサイトでの学校基本情報にも掲載している。

項目Ⅷ 財務

総括

2021年度の入学も全学科・課程で定員を満たす入学者があり、財務基盤は安定している。年度および中長期の学校運営計画に従い事業を推進して会計管理を行い、法人本部の確認のもとで適正な財務運営を行っている。

課題

安定した財政基盤の維持。

今後の方向性、方策など

2023年度の入学定員増員に際しても、財務基盤を安定させる入学者確保を継続していく。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

定員を満たす入学者で財務基盤は安定している。学校法人財務諸表が公開されている。

小項目 Ⅷ-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 定員を満たす入学者により財務基盤は安定。中長期的財政予測を行い、法人ならびに各校の財政基盤の安定を確認している。2023年度の入学定員増員に際しての校舎建設、教育環境設備、職員採用も財政面を確認したうえで進めている。

小項目 Ⅷ-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 年度事業計画・予算、収支計画のもとで予算執行、事業遂行、会計処理を行い、その妥当性を法人本部・学校の双方で随時確認している。2022年度の予算・収支計画は、2023年度の入学定員増員の費用を含めたものである。

小項目 Ⅷ-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 財務管理に関するチェックを随時行い、法人本部での稟議承認や定期的な会計管理、外部監査を実施している。

項目Ⅸ 法令等の遵守

総括

法令等を遵守した適正な学校運営を図り、第三者評価において認められている。2021年度は作業療法学科が一般社団法人日本リハビリテーション教育評価機構の第三者評価を受審、併せて世界作業療法士連盟の教育水準審査を受け、ともに認定更新をしている。

課題

理学療法士・作業療法士養成施設指定規則改訂後の教育課程の推進を確認する。

今後の方向性、方策など

3年課程の昼間コースは、2022年度に養成施設指定規則改訂後の新たな教育課程による卒業生を輩出する。入学から卒業までを通じた教育に関わる事項、特に3年次の臨床実習指導者の資格要件の確認、実習地登録などの体制を確認して充実させる。

2022年度には、理学療法学科が第三者評価の更新年度となり、受審を予定している。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

2021年度の理学療法学科昼間コースの入学者が定員を超えている状況について

⇒ 指定校入試での受験者が想定を大きく上回ったことによる。県からの指摘を受け2022年度は指定校入試を是正して適正な入学者数となっている。

小項目 Ⅸ-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 関係法令、理学療法士・作業療法士養成施設指定規則に準じて自己点検を行い、学校関係者評価、第三者評価で確認して、適正な運営を行っている。

2021年度は作業療法学科が第三者評価を受審して認定を更新している。

小項目 Ⅸ-2

個人情報に關し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 個人情報保護規程に則り、情報は電磁的管理のもとで適正に運用を行っており、情報の漏洩は発生していない。学生に対しても、新入生へのi-padの配布時から個人情報やインターネットに関するリテラシー教育を行いトラブル発生なく運用されている。

項目X 社会貢献・地域貢献

総括

コロナウイルス感染防止のため、多くの社会・地域貢献の機会が中止となる状況が続いている。オンラインで開催される講習会への協力や障害者イベントの実行委員として教員が参画するなど、可能な協力を継続して行っている。

課題

コロナウイルス感染防止の動向に応じた社会・地域貢献について、協力の方法や可否の判断を適切に行なう。

今後の方向性、方策など

社会・地域貢献に関して、再開されるイベントへの対応、およびリモートやオンラインシステムの有効活用による貢献の在り方を検討する。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

ボランティアなど社会貢献の活動、地域について

⇒ 学校の所在地である八千代市からの依頼が多く、市のイベント実行委員会への参画や社会福祉協議会との連携によるものもある。なお、市外から通学している学生も多く、地域にこだわることなく情報は提供している。

小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 理学療法士・作業療法士臨床実習指導者講習会は、オンラインシステムの提供と講師派遣を行い、学院を基地局会場として開催している。

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: S ■学校関係者評価: 適正

■コメント: 地域の障害者イベントなどボランティアの機会は中止となつたが、教員が実行委員として継続的に参画して、開催の可否や次年度の開催方策、ボランティア体制の検討などにリハビリ専門職としての提案や協力をすすめた。2022年度も引き続き教員が実行委員として参画する予定である。

3. 学校関係者評価の総括

コロナ禍の状況でも滞りなく学校運営がなされ、教育活動、進級や国家試験合格率など学修成果においても素晴らしい実績が認められ、オンライン授業の整備や就職率100%の継続も評価できる。職業実践および人財育成につながる2023年度の入学定員増員の計画も着実に進められることを期待する。

自己評価の適正について

- 1) 自己評価の内容は適正である。
- 2) 各評価項目の内容は適正に記載されている。
- 3) 自己評価の内容は根拠資料から確認できる。
- 4) 自己評価、学校関係者評価が学校運営に反映されている。

以上より、学校関係者評価において、自己評価ならびに学校運営は適正と評価する。

4. 学校運営に関する意見

- ・八千代リハ学院の学校運営の特色や他校との違い、国家試験合格率や合格者数など、客観的に判断できる情報があるとわかりやすい。
- ・増員する作業療法学科の学生募集はどのようにすすめるのか。作業療法士が多くて在宅復帰の実績が高いリハ病院、急性期病院で作業療法士の必要性が高いことなども高校生に情報提供を行い、進路指導の教諭へも作業療法士の認知、理解を高める情報提供が望まれる。
- ・非常に素晴らしい学修成果であり、卒業生のアンケート結果も高く、入学定員が増えても教育環境や教職員の体制を整えて、高い実績を維持していただきたい。
- ・教職員の業務管理、専門性の維持、向上、研修機会の確保など、コロナ感染防止の中でも継続して総合的な教育力を高めるサポートが望まれる。
- ・令和3年度学校運営重点目標の年度評価の各項目に関して、委員会より、授業評価(ランク:A-3)、教育力向上(A-2)、国家試験対策(A-3)、退学・留年の減少(A-3)、修学支援の実施(A-3)、修学支援の体制(A-3)、教育施設・設備(A-2)、防災体制(A-2)、施設設備利用などの社会貢献(A-2)、ボランティアなど人的社会貢献(A-2)について意見を伝える。

以上

(文責 学校評価実施責任者 豊島宇茂)